

売上前年比 170%と好調な台湾市場のさらなる強化を図り 「台湾タカラ会」初のオンライン開催

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタンダード株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：渡辺岳夫）は、台湾における売り上げの拡大を図るため 2018 年より行っている得意先との懇談会「台湾タカラ会」を 2021 年 2 月 22 日（月）に初めてオンラインにて開催しました。



（左：挨拶をする代表取締役社長の渡辺／右：現地とオンラインで繋いだ「台湾タカラ会」の様子）

タカラスタンダードは、東アジアを中心に 8 カ国で現地の販売代理店を通して商品を販売しています。中でも台湾は、現地販売店が約 30 店舗のショールームを展開しており、最も重要な市場の一つです。現地販売店によるショールームの展示強化や昨年発売したシステムキッチン「トレーシア」の売上が好調だったことなどから、2020 年度第 3 四半期の売上実績（4-12 月累計）も前年比約 170%と非常に好調で、今後もさらなる売上拡大が期待できます。

そして、現地の代理店と主力販売店にさらに当社への理解を深めていただくため、また販売ルートを超えて交流を図っていただくために、2018 年から「台湾タカラ会」を実施していました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第 3 回目を迎える今年は、タカラスタンダード本社（大阪市）と台湾の各代理店や販売店をオンラインで繋いでの開催となりました。

当日は、約 30 名が出席し、冒頭には当社代表取締役社長渡辺が「台湾は当社にとってもたいへん重要な市場だが、台湾の人口や所得水準を考えるとまだまだ入り口。今後のさらなる成長のため、皆さんのお力をお借りしたい」と挨拶をしました。その後、日本国内や海外の業績の報告が行われた他、商品などに対する要望に関する意見交換が行われました。現地の意見を取り入れ、今後は海外向けの商品開発などを進める予定です。

タカラスタンダードは、今後も台湾をはじめとした東南アジアを中心に売り上げ拡大を図り、海外市場におけるさらなる成長を目指してまいります。

<タカラスタンダードとは>

1912 年創業。『ずっと「愛せる」というしあわせ。』をブランドコンセプトに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

〔設立：1912 年 5 月 30 日（創業 108 年） / 売上高（連結）2,015 億円（2019 年度） / 従業員数（連結）6,214 名〕